



NPO 特定非営利活動法人

埼玉森林サポータークラブ

コミュニケーション・ニュース

【令和6年4月1日 発行（季刊） VOL. 97】

「新年度を迎えるにあたって」 会長 霜触 賢

私達のクラブがそれまでの「彩の国森林サポータークラブ」からNPO法人「埼玉森林サポータークラブ」として設立されてから今年で23年目を迎えました。

しかしながら今後も活動を続けていくうえでの課題もあることも事実です。新年度を迎えるにあたり、今迄に理事会や役員会等で問題になった事柄をもとに新年度の方針を提示させていただきます。もとより単年度で解決出来る課題ではありませんが、クラブ員の方々も現状を良く認識していただければ幸いです。

「第一に世代交代を進めます。」今迄クラブの活動を世話役として牽引してきたベテランの高齢化がすすみ、5年先も今のままの体制でいられるか保証はありません。今のうちに積極的に後継者を育て埼玉県の森林の保全活動を継続させていかなければなりません。そのためには新世代の方々の積極的起用と協力が何よりも重要であります。

「第二に活動の随時、適格な点検見直しします。」スケジュールありきではなく、作業の目的や期間、内容、時期などが適正かを常に考えていかなければなりません。特に成熟したフィールドでは必要です。年間計画も状況によっては変更することもあります。要は無駄な活動を控えることです。必要なない場所で、必要度の低い作業を、必要としない人数で行っていないかなどを検討したいと思います

「第三に社会貢献活動の取り組みを継続して行っていきます。」現在クラブでは春秋の（株）オークネットの森林活動支援、年末年初の越生梅園小学校の森林活動体験支援、武藏野落葉堆肥農法支援などを大きな柱として活動しています。これらは、社会貢献活動として重要なものであり、今後も積極的に関わっていきますのでこれからもご参加をお願い致します。

「第四には手作業者の活動の場を確保、拡充をはかりたいと考えます。」現在クラブのフィールドでは動力を使った大掛かりな間伐作業は次第に減少しています。これはフィールドがある程度成熟していることを示しています。そのかわり、よりきめ細かな整備が必要になってくるものと思います。特に私たちが汗を流して植栽した、越生町龍ヶ谷の森、小川町高谷の森、長瀬町宝登山の森などは枝切り、ツル切り、除伐などは手作業班の出番です。動力を持たずとも楽しく汗をかくことが出来るはずです。

「第五として今年も泊まり込みの研修を実施することにします。」自分たち以外のフィールドで視察研修を行うことは視野を広め、また会員相互の親睦を図る上でも意味のあることだと考えます。

これらのこと以外にも課題はありますが、会員皆さんからもご意見をいただき一歩一歩進めていきたいと思います。ボランティアの根本は自ら進んで行うことです。あなた任せではなく積極的に仲間に手を貸すなど活動に関わっていただきたいと思います。

森づくりは息が長い活動ですが、社会に貢献できるやりがいのある活動です。今年も皆さんで楽しく汗を流して山仕事を楽しみましょう。



活動記録（2023年12月・2024年1月・2月）

月 日	曜 日	フィールド	内 容	参 加 数
12月2日	土曜日	寄居風布の森	間伐	12
12月3日	日曜日	ときがわの森	枝打ち・間伐	16
12月6日	水曜日	浦和コミュニティーセンター11集会室	第3回理事会	16
12月9日	土曜日	黒山の森	間伐	12
12月10日	日曜日	越生ふれあいの里山	除伐、草刈り	15
12月16日	土曜日	笠幡の森	笠刈・枝条整理	11
12月17日	日曜日	くるみ小屋	餅つき等	15
12月17日	日曜日	長福寺の森	刈払除草・枯損木処理・林内整備	9
12月24日	日曜日	緑の森博物館	下草刈り	中止
1月3日	水曜日	くるみ小屋	安全祈願	8
1月4日	木曜日	緑の森博物館	安全祈願	19
1月12日	金曜日	世界無名戦士の墓公園	梅園小 支援活動準備	4
1月14日	日曜日	越生ふれあいの里山	安全祈願・林内パトロール	16
1月19日	金曜日	世界無名戦士の墓公園	梅園小 支援活動	14
1月20日	土曜日	江戸屋弘東園	落ち葉掃き	15
1月21日	日曜日	笠幡の森	笠刈・枝条整理	中止
1月21日	日曜日	くるみ小屋	広葉樹伐採	8
1月27日	土曜日	緑の森博物館	全体協働作業	2
1月28日	日曜日	緑の森博物館	間伐・除伐	中止
2月11日	日曜日	越生ふれあいの里山	間伐・除伐	21
2月18日	日曜日	くるみ小屋	林内整理	7
1月23日	土曜日	寄居風布の森	間伐	中止
2月24日	土曜日	浦和コミュニティーセンター13集会室	第4回理事会	16
2月24日	土曜日	入間市宮寺・二本木地区センター	緑の森博物館保全活用協議会	1
2月26日	日曜日	緑の森博物館	間伐・除伐	中止

自然のたより (65) ナラ枯れ

2020年頃から本格的に始まった埼玉県南部のナラ枯れが、ますます猛威をふるっています。この写真にある「(仮称) 川越市森林公園」計画地は約40haほどの畠もある平地林ですが、次々とコナラ、クヌギがカシノナガキクイムシに穿孔され、大木が枯れ木になっています。こうなると枝の落下も早く、危険なので散策コース沿いで伐採されています。公有地のエリアは市が業者に依頼し、この冬だけで50本近く伐採されています。昨年までは伐採木は林内から搬出されていましたが、今年は予算不足で林内に残置されていて、林床の植生がダメージを受けています。民有地の場合は地主の負担になるので大変です。ボランティアの方や、業者に依頼して処理されていますが、放置されているエリアも多くあります。

これから新緑の季節ですが、褐色の葉を残したままのナラ枯れ木を見ると、あの5ミリほどのカシナガがこれほどの悪さをするのかと、自然の怖さを思います。所沢のトトロの森では伐採費用に1000万近い出費だそうです。斜面林なので簡単ではないのでしょう。山梨など近隣の県でも目立ち始めました。車で通ると山肌にチョコレート色の枯れ木が増えています。

〈No. 647 賀登 環 川越市〉



高所作業車での伐採



直径70cmの大木の切り株



1本の木でも大量の残骸

拠点活動レポート

越生ふれあいの里山活動（越生町）

■2月11日日曜日 前日からの晴れで朝の集合時間前の気温も下がりとても寒い状態でしたが、いよいよ花粉の飛散が始まろうかといった中の活動となりました。前回に引き続きさくら公園脇のフィールドを4班に分かれて除伐作業を行いました。参加メンバーの班配置をある程度固定化して進めています。その甲斐あって「今回はここから先を作業する」「ここらあたりは次回に持ち越す」など計画的に作業を行えるようになってきました。1班のエリアが対象フィールドでは一番位置が高いところとなり、胸高直径で15~20cm程の対象木が多くチェーンソーでの作業が中心となっていました。2班は手作業班なので1班で伐採対象となるような木はよけて除伐作業。次回は1班と2班は入れ替えての作業を予定しています。3班・4班は横に広いエリアとなり元々ひと班構成だったものをふたつに分けての作業でした。〈越生ふれあいの里山担当 No.784 平井崇詞 狹山市〉



雑木林広場あずま屋で一休み

ときがわの森活動（ときがわ町）

1月、2月、ときがわの森の貯木場はお昼になっても陽が射さず、寒さが身を切り刻み、体を壊しそうなので活動中止です。

■3月3日（日）参加者12名

am 7:30。ようやく駐車している付近まで陽ざしが伸びてきた。何と有難いことヨ。

am 8:00。ミーティング。

活動は、手作業は枝打ちの続き。現時点でエリア全体の1/3位済んだところです。枝打ちは無節で年輪が平滑となる材にするのが主目的のことですが、枝打ちしたエリアは、美観が格段によくなっています。動力作業は今回から2次間伐に入りました。1次間伐で劣等木は、ほぼ切り倒しているはずですから、2次間伐では、育成木を選び、その成長（着葉）妨げる樹を取り除いていくというスタイルで臨みたい、臨んでいただきたいと思います。上手に樹を伐った時の快感もいいですが、「いい樹になれヨ。」と見守る感慨も味わっていただきたいし。

am 12:00。すっかり温かくなった貯木場の陽だまりで、小室専務心づくしのクリームシチューを頂く。

今後、ときがわの森のスローガンは「広い若齢段階のヒノキ林着葉がすすむように枝打ちと間伐を繰り返し立ち姿のよい樹に育てよう！」とします。

〈ときがわの森担当 No.790 山根義之 朝霞市〉

緑の森活動（入間市 緑の森博物館）

■令和6年1月4日（木）安全祈願及び活動地巡回毎年恒例、新年の安全祈願を糺谷八幡神社にて行いました。クラブ員19名が参加し、1月1日に能登半島で大きな震災があった後だけに、気持ちも新たに安全な活動を祈りました。活動地巡回では最初に所沢地区人工林へ向かい、今後の間伐作業について検討しました。すっかり見通しの良くなったドングリ植林地通り、案内所経由で20周年記念さくらを植樹した「雑木林広場」へ登りました。「ナラ枯れ対策」で切り出されたコナラ材の集積や作業道周辺のナラ枯れ被害の状況を観察しながらの巡回でした。〈緑の森博物館担当 No.768 武藤光盛 所沢市〉



糺谷八幡神社 安全祈願



新入会員発言

入会のきっかけと入会後の印象、今後への思い
一般企業退職後、暇を持て余すなかで「そういえば以前TV番組『こんなところにポツンと一軒家』で紹介されていた、『埼玉森林サポートクラブ』があったな」と思い出し、ネットで探して入会しました。幽霊会員の時期もありましたが、2023年7月に、初めて緑の森の博物館周辺の下草刈りに参加し、8月の研修旅行にも参加しました。仲間として受け入れて下さった個性豊かな皆様に感謝し、自分なりに続けられる範囲で活動を続けようと思っています。

〈会員No.825 積山良二 入間市〉

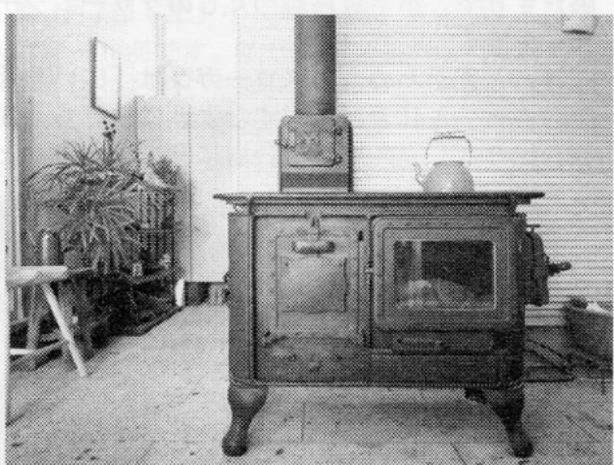
シリーズ 薪ストーブの魅力と暮らし

第44話 『温度管理』

この冬は冬らしい寒さの日があったり季節外れの暖かな日があったり、気温の変化が激しくそれに合わせた体調の管理が何かと大変だったことと思います。薪ストーブの暖房での温度管理ですが、温度調整のスイッチというものはありませんのでかなりアバウトになります。単純に薪が燃えているか消えているかだけ、強いて言えば、寒さが厳しい日であれば太めの薪を多く長時間絶やさず燃やす、それほど寒くない日であれば細めの薪を適度に燃やす、温度に合わせて燃やす薪を加減するのが薪ストーブでの温度管理になります。

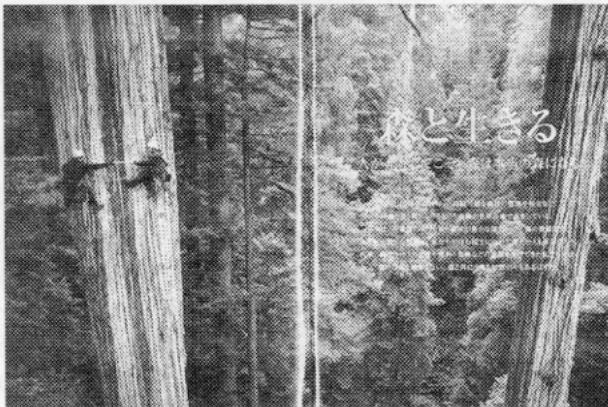
時々、薪を燃やし過ぎて部屋が暑くなり過ぎてしまうことがあります。そういう場合は薪ストーブや薪の方での調整は出来ませんので、窓を開けて外の冷たい空気を入れて部屋の温度を下げるようになります。とにかくアバウトです。

〈No.30 木島 浩 寄居町〉



森林の雑学

一世界一背の高い樹ー



世界一背の高い樹は、アメリカ・カルフォルニアに生息するセコイヤ（レッドウッド）であると考えられています。セコイヤはイトスギの仲間で常緑の針葉樹です。この樹は地球上最大の生物種であり、最大級のものは高さ106メートルから115メートルで、建物の35階から38階の高さです。このカルフォルニアの沿岸に現存するセコイヤの巨木が、いつ生まれたのかは分かっていません。これまで樹に穴をあけて年輪を数えようとした人がいないからです。老いたセコイヤは中が空洞になっていると思われる所以、ドリルで穴をあけても樹齢はわからないのです。最も古いセコイヤは樹齢二千年から三千年と推定されています。パルテノン神殿が造られたのと同じ時期に生まれたということです。

このセコイヤこそが、地球上で最初に生命が誕生した時からこれまでに自然界に存在した一つの生物として、世界最大最長のものと考えられているのです。かつて地球上に生息した恐竜よりも大きいのです。さらに、地球の重力に逆らって100メートル以上の高さまで地中から水分を吸い上げて成長し生きていくことは異常なことと考えられます。全体的な樹木の大きさ（木の体積）からすれば、世界最大の木はセコイヤではなくジャイヤントセコイヤとされています。この木はセコイヤとも近い親戚関係にあるヒノキ科の樹木で、イトスギの仲間だそうです。ジャイヤントセコイヤはカルフォルニア州シエラネバタ山脈西側の狭い地域に生育しています。セコイヤより太くてどっしりとした幹を持っていますがセコイヤほど背は高くありません。現時点で世界最大の木はゼネラル・シャーマン（シャーマン将軍の木）と呼ばれるジャイヤントセコイヤで、シエラネバタ山脈のセコイヤ国立公園にあり、観光の目玉となっています。幹の直径は胸高で約8.2メートルで、高さは83メートルのとても高い樹です。それでも世界一背の高いセコイヤより30メートルも低いのです。

〈No.660 小室正人 さいたま市〉

フィールド活動レポート

■1月3日（水・祝）～1月14日（日）活動地の3か所で安全祈願が行われました。

・1月3日（水・祝）クルミ小屋（神川町）



・1月4日（木）緑の森博物館（入間市）



・1月14日（日）越生ふれあいの里山（越生町）



■12月16日（土）川越市「笠幡の森」

寄稿：中山みのり（立正大学地球環境科学部環境システム学科）

環境問題や生物多様性、森林の保全・管理などについて関心を持っていたためNPO森林サポートクラブの活動はどのようなことを行っているのかを知りたいと思い参加しました。体験の中で印象に残った事は、樹木や竹の間伐には方法があることです。樹木の伐採する方向を決め、その周囲の安全確認をすることは知っていたが、決めた方向に樹木を倒すための切り方があることに驚きました。実際に実践してとても難しかったが、やりがいがありました。また、森林の管理には、長い歴史と多くの方法、住民との意見などが試行錯誤しながら、現在の森林環境を管理することができているということが分かり、感銘をうけました。大学で勉強したことを実際に体験することができ、また、多くの新しい学びとサポートクラブの皆様のサポートを頂いたことでとても良い経験になりました。

■1月20日（土）三芳町「江戸屋甲東園」

今回、落ち葉集めの活動に初参加した。作業は、大きく分けて①落ち葉を集めて籠にいれる、②籠を軽トラに積んで運搬する、③落ち葉を籠から出して集積場で踏み込む、の3つで、このうち②の軽トラ運転を担当した。落ち葉集めより体力的には楽だったが、パワステなしの軽トラのハンドルさばきには思いのほか体力を消耗した。作業の終盤にはポツポツと雨が降ってきたが、なんとかお昼過ぎには作業終了した。この活動は、他のボランティア団体と共に実施している点と、農業寄りである点が、他の拠点活動とは違っており新鮮な体験であった。これからも、クラブとしてこの「落ち葉堆肥農法」をサポートしていくべきだと感じた。

〈No. 792 金子令治 熊谷市〉



フィールド活動レポート

■1月19日(金) 越生町 梅園小学校植樹支援

梅園小の植栽活動の支援を行いました。昨年11月の間伐体験と同じ5年生17名が山桜の苗木を桜山公園の斜面地に一人一本の植栽を行いました。クラブ員の事前準備もありとてもスムースに作業を終えることができました。子供たちの事後のアンケートにも「大変だったけど楽しかった」「大きくなった桜をみたい」「森を育てるのは大変なことがわかった」などの感想が書かれていました。願わくばこの気持ちを大切にし森林への関心を持ち続けてくれたら我々も支援のし甲斐があったというのだ。この子供たちが桜と同じく大きく育ってもらいたい。

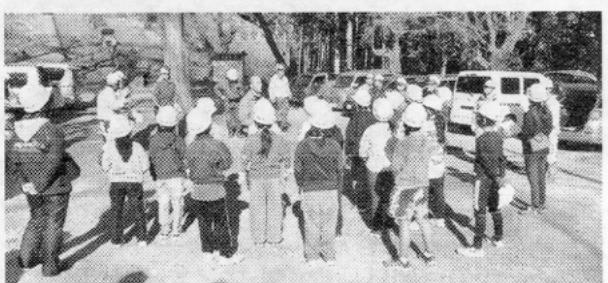
〈No. 668 霜触 賢 川越市〉



■3月3日(日) ときがわ町「ときがわの森」

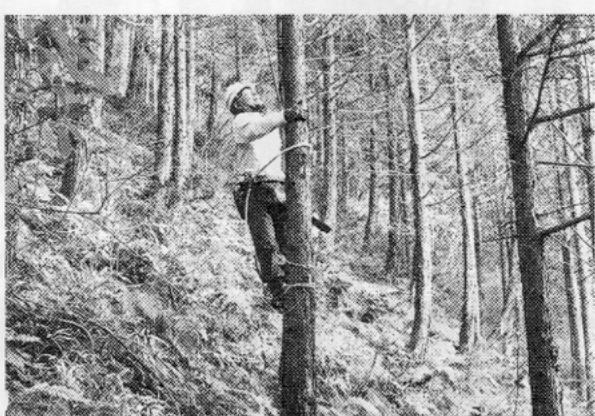
12名の参加者があり、集合場所の貯木場は大変寒く、うっすら霜が降りていた。8時すぎにはようやく日も差してくる。日が当たると少々暖かい。朝礼の後3班に分かれ作業開始。枝打ちの手作業班は、一本梯子を持ち最上部のエリアへ、また、私たち動力班もその隣の最上部の間伐作業、もう一班は一本梯子小屋上部だが、やはり急斜面で、それぞれ3班に分かれての作業を行った。今日も安全第一で、ヒヤリハットもなく無事作業終了。ランチタイムには今日予想していなかったクリームシチューの差し入れがあり、これだけで十分満腹となった。体も温まる事ができた。今日は、昨日の鷹ノ巣の活動の連日参加で、やはりこの歳になると、昨日の疲れも残っており、また冬季活動休み明けで身体も山作業に慣れていないせいもあり、2日連続は体にこたえた。連日参加者は3名おり、身体も重たそうで大変そうに見えた。もう連日の参加は考えものであると感じた。

〈No. 522 岡田豊国 東松山市〉



■3月2日(土) 小川町「鷹ノ巣の森」

竹刈&篠刈です。約10年前に植林した木々は大きく成長しましたが、元々が竹林であった場所であるため10年間毎年毎回毎回竹を刈り続けてきても未だに竹の勢いは衰えず竹との格闘が続いている。竹に疲れ果ててしまつてこれ以上書けません！ 〈No. 30 木島浩 寄居町〉



■入会のご案内

私達の活動は、多くの人々のご協力によって支えられています。ご賛同・ご支援を宜しくお願いします。

- ・入会金：個人 2,000円／団体 10,000円
- ・年会費：個人 3,000円／団体 10,000円
- ・賛助会員：年会費一口 5,000円

事務局からのお知らせ他

事務局から

◇ 令和6年度会費納入のお願い

会費納入を下記の郵便振込にお願いします。

口座番号 0120-2=407239

加入者名 NPO法人埼玉森林サポータークラブ

年会費 3千円

◇ 第75回全国植樹祭の協賛について

2月24日の理事会において、クラブが全国植樹祭において、招待者への植樹の支援等の役務の提供等による協賛について協議しました。早速県の全国植樹祭推進課に申し出ました。今後協賛内容について協議されるものと思われます。会員の皆様のご協力をお願いします。

◇ 体調管理を万全にして、活動参加へのお願い

世の中の活動が活発化する中で、インフルエンザ・コロナ・RSウイルス等の感染症が増えているようです。体調の管理を万全にしての活動参加をお願いします。

【森林の話 森の話 日本三大美林】

「日本三大美林」といえば、木曽ヒノキ、秋田スギ、青森ヒバです。現在は、天然林が少なくなっていますが、それぞれその木目が細やかで美しい木材です。さて「ヒノキ」「スギ」「ヒバ」は、本州から九州に分布する日本を代表する樹種で、全国に生育していますが、まとまって生育する美しさが美林として名付けられたのだと思います。その歴史をたどると「木曽ヒノキ」は、鎌倉時代には鎌倉円覚寺、室町時代には銀閣寺などの造営に使用され、豊臣秀吉は大坂城や聚楽亭などに利用し、江戸時代には江戸城や名古屋城にも利用されたといわれおり木曽ヒノキは大量に伐採されました。その後、尾張藩が厳しい森林保護政策を打ち出し、18世紀はじめには、後世に語り継がれることになる「ヒノキ一本首一つ」という過酷な掟もできました。「秋田スギ」の存在は、古くから知られていたようですが、豊臣秀吉が伏見城修理のために使用されたといわれております。江戸時代に入り1602年佐竹氏が常陸から移封され石高の激減、城下の整備や土木事業、藩財政の立て直しのために大量に伐採ましたが、その後、択伐し実生を天然更新させるなど美林をよみがえらせました。現在は美しい柾目を利用した高級内装材、天井板等に使用されています。また「曲げわっぱ」や「桶・樽」などの原材料として伝統工芸品としても利用されています。「青森ヒバ」は、古くは平泉中尊寺の金色堂の建立が知られています。江戸時代に入り初代津軽藩

主の津軽為信によって津軽地方が統轄され、藩の諸制度が確立されるにしたがって、山林に関する諸制度も整備されてきました。成木になるまでに長い年月がかかる「青森ヒバ」が現在も美林として残っているのは、藩政時代からヒバ山をきびしく守ってきたためです。ヒバ材にはヒノキチオール（台湾ヒノキから最初に発見されたことからヒノキチオールという名前がつけられましたが国内のヒノキには殆ど含まれていません）が多く含まれています。このため、材質は湿気やシロアリ等に非常に強く、腐りにくい特性があります。金沢では、青森ヒバを使った家屋が高級とされ漆塗りされて使用されてきました。能登半島には「アテ」といわれるヒバが生産されていますが、金沢では青森ヒバが珍重されているとのことです。現在この三大美林は、それぞれの歴史を踏まえ次代を見据えて育林が続けられています。これらの美林は「木曽ヒノキ」の赤沢自然休養林、「秋田スギ」の上大内沢自然観察教育林、「青森ヒバ」の大畠ヒバ施業実験林などで雄大で素晴らしい美林を体験することができます。

(No. 719 玉熊英一 さいたま市)



編集後記

今年は2月も暖かい日が多く「暖冬」と決めこんで活動での服装を整えておりました。しかしながら3月に入って雪が降るなど、思いのほか寒くなり「朝寒くてつらいなー」と思える日が続いております。会員の皆様には服装で調整し、寒さ対策は万全にして活動参加ください。私が所有しているスチールのチェーンソーの話になりますが、ここ数年だましだまし動かしてました。しかし今シーズンは全く動かなくなり部屋の飾りになっています。（初爆も聞けてない）いろいろ聞くと部品もメーカーには無い様な古い機械なので、修理は難しいとの事。春になり自然に活動も活発化するのと合わせるように、機械も動いてくれるかな。と夢の期待をして、ひとまずリコイルの紐を引いてみることにします。

(No. 784 平井崇詞)

活動スケジュール（2024年4月～7月）

月	日	曜日	フィールド	活動内容	集合場所
4月7日	日	ときがわの森	手)枝打ち、機)間伐	ときがわ町西平 越瀬橋 手前 左側	
4月13日	土	笠幡の森	枝条整理・除伐・笹刈り	川越市笠幡1953 林内通路脇	
4月14日	日	越生ふれあいの里山	間伐:手)、機)共	虚空蔵尊 越生町上野2260先を右折 さくら公園駐車場	
4月20日	日	寄居風布の森	間伐:手)、機)共	林道葉原峠線防火水槽脇の広場	
4月21日	日	くるみ小屋	手)つる切り、機)除伐	神川町上阿久原 くるみ小屋	
4月28日	日	緑の森博物館	下草刈り:手)、機)共	入間市宮寺889-1 緑の森博物館	
5月4日	土	北朝霞駅前	緑の募金活動(街頭募金)	北朝霞駅前	
5月5日	日	ときがわの森	手)伐木研修、機)間伐	ときがわ町西平 越瀬橋 手前 左側	
5月11日	土	第1回理事会	理事会	さいたま市	
5月12日	日	越生ふれあいの里山	間伐・除伐:手)、機)共	虚空蔵尊 越生町上野2260先を右折 さくら公園駐車場	
5月18日	土	越生ふれあいの里山	オーケネット活動支援	虚空蔵尊 越生町上野2260先を右折 さくら公園駐車場	
5月19日	日	くるみ小屋	記念行事(くるみ工房作品展)	神川町上阿久原 くるみ小屋	
5月19日	日	高谷の森	坪刈り・苗木固定、下草刈り	小川町大字高谷2737-5	
5月25日	土	鷹ノ巣の森	篠竹刈り:手)、機)共	小川町鷹巣680	
5月26日	日	緑の森博物館	下草刈り:手)、機)共	入間市宮寺889-1 緑の森博物館	
6月2日	日	高谷の森	坪刈り・苗木固定、下草刈り	小川町大字高谷2737-5	
6月8日	土	通常総会	通常総会	さいたま市	
6月9日	日	越生ふれあいの里山	間伐・除伐:手)、機)共	虚空蔵尊 越生町上野2260先を右折 さくら公園駐車場	
6月15日	土	越谷市イオンレイクタウン	全国植樹祭1年前記念イベント	越谷市レイクタウン3丁目1-1イオンレイクタウンmori	
6月15日	土	笠幡の森	竹林整備:枝条整理、竹刈り	川越市笠幡1953 林内通路脇	
6月16日	日	龍ヶ谷の森	下草刈り:手)、機)共	越生町大字大満257大満農村広場	
6月23日	日	緑の森博物館	下草刈り:手)、機)共	入間市宮寺889-1 緑の森博物館	
6月23日	日	くるみ小屋	下草刈り:手)、機)共	神川町上阿久原 くるみ小屋	
6月30日	日	寄居風布の森	間伐:手)、機)共	林道葉原峠線防火水槽脇の広場	
7月7日	日	カタクリの里	下草刈り:手)、機)共	神泉カタクリの里	
7月14日	日	越生ふれあいの里山	間伐・除伐:手)、機)共	虚空蔵尊 越生町上野2260先を右折 さくら公園駐車場	
7月20日	土	寄居風布の森	間伐:手)、機)共	林道葉原峠線防火水槽脇の広場	
7月21日	日	くるみ小屋	水道メンテナンス	神川町上阿久原 くるみ小屋	
7月28日	日	緑の森博物館	下草刈り:手)、機)共	入間市宮寺889-1 緑の森博物館	

※活動予定は、中止や変更することがあります。その節は一斉メールにてお知らせいたします。締め切り後に参加する時や、申込んだが当日欠席する時は事務局まで連絡を！直前の当日欠席は世話役まで連絡を！
 ※集合時間は8時30分です。支度をして集合して下さい。

拠点フィールドのご案内

■ときがわの森（ときがわ町）

毎月第1日曜日活動（担当：山根義之・岡田豊国）

■越生ふれあいの里山（越生町）

毎月第2日曜日活動（担当：平井崇詞・鈴木久代・樽石亜由美・菊池修一郎）

■緑の森博物館（入間市）

毎月第4日曜日活動（担当：武藤光盛・伊東喜尋）

埼玉森林サポータークラブ・コミュニケーション・ニュース 2024年4月1日発行（年4回発行）

■発行：特定非営利活動法人（NPO法人）
 埼玉森林サポータークラブ

■発行責任者：霜触 賢 ■編集リーダー：沢田 正

■編集スタッフ：木島 浩・北村 博・梶田 力・小室 正人・利根川雅実・香取由美・樽石亜由美・菅家征史・小坂博美・伊東喜尋・片野健一・菅谷 榮・岡田豊国・平井崇詞・藤井俊文・玉熊英一

■事務局：〒330-0063埼玉県さいたま市浦和区高砂3-12-9 農林会館B1 TEL. 048-814-2770
 <事務局開設日：月・水・金>10時～15時

■事務局メールアドレス
 info@shinrin-supporter.org

■ホームページアドレス
 http://www.shinrin-supporter.org/